



## 三浦中学校の学力・学習状況について（報告）

学校教育活動も後半にさしかかりました。今回は、4月18日（木）に3年生を対象にして実施された【全国学力・学習状況調査】、1学期に1、2年生を対象にして実施された【NRT検査（学力到達度検査）】及び【英検IBA（英語能力測定テスト）】の結果に基づき、本校の生徒の学力の定着状況、その強みと弱みを分析し、検証した内容と今後の指導の手立てについて、特に保護者の皆様に報告いたします。調査より、本校生徒の学力のすべてが測定できるものではありませんが、今後の子どもたちの学力向上の取り組みに活かしていきます。

### 全国学力・学習状況調査（3年生）

#### 【国語】

あきらめずに問題に取り組む姿勢が定着しています。生徒質問紙から見られる特徴として、意欲・関心が低く、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることを苦手と感じている生徒が多いです。国語だけでなく全教科を通して、自分の考えを書き、他の人に説明をする取り組みが必要です。

＜強み＞ 「話し合いの流れを踏まえて自分の考えを書く」問題はよくできています。学校全体で取り組んでいる「クラス会議」などの日常的な話し合いの中で自分の考えを述べる経験が活きていると考えられます。「短歌の中から一首を選び感じたことや考えたことを書く」においては、正答率92.1%という高さでした。

＜弱み＞ 「投稿先の名前と住所を書く」の定着率が低かったです。小学校や中学1年生の書写で既習のはずですが、1年生の自然教室でこれまで取り組まれていた「家族への手紙（家庭へ郵送）」が本学年ではなかったことや、2年生で行った職場体験のお礼状も郵送ではなく体験者全員の作文をまとめて持参したことが、学校活動において手紙を書く機会を持てなかつたことにつながってしまいました。

- 小グループの話し合いを、学活だけでなく国語科の授業でも効果的に多用し、対話的な学びを仕組んでいきます。
- 新聞などの書き方、手紙の書き方、プレゼンテーションの行い方、話し合いの仕方などは、国語の時間のみならず、他教科や総合的な学習の時間などと連携して、社会に出てからも必要な力として生徒にも意識させて取り組みます。
- 新しい課題にも意欲的に取り組めるよう、基礎学力の充実と、伝えたい・聞きたいという関わりの態度を育む学習課題・学習形態を工夫していきます。

#### 【数学】

短答式の設問についての正答率は高いですが、記述式は正答率が低く、無回答率も高くなっています。生徒質問紙から見られる特徴として、数学の大切さを感じている生徒が多く、今後は、さらに数学の面白さや楽しさを感じさせる取り組みが求められます。

＜強み＞ 各領域とも知識・理解や技能の力は定着しつつあります。特に、「数と式」の定着率が高く、「関数」「図形」「資料の活用」もできています。

＜弱み＞ 「問題文を読みとり、表やグラフと関連づけて考えたり、説明を求められた」設問の正答率が低く、無回答率が高くなっています。基礎的な力は定着しつつありますが、それぞれの領域を関連

づけて考えることや書いて伝えることが苦手な生徒が多いです。

- 基礎の定着を図るため、反復練習を意識しておこないます。
- 文章の読みとりや、自分の考えを自分の言葉で伝えることを繰り返し学習の中に仕組んでいきます。

### 【英語】

生徒質問紙によると、「英語の勉強は好きですか」「あなたはこれまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか」に肯定的な回答をした生徒が極めて高く、英語に対して意欲的な姿が伺われます。

**<強み>** 問題形式（選択式、短答式、記述式）に関わらず、特に「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の各領域において正答率が高く、「話すこと」も含めた4領域の多くの問題の無解答率が低くなっています。

**<弱み>** 「話すこと」の正答率が低く、情報に基づいて話そうとする姿勢はありますが、語や文法の間違いが多かったです。また、何とか会話を続けようとはするものの、与えられた条件を満たさない場合も多かったです。コミュニケーションをしようとする素地は育成されつつありますが、「適切に」「正確に」表現できる力を育成する必要があります。

- 会話活動後に自分が発話した英語を書き起こし、既習文法を確認したり、条件に合っているかの確認をしたりしていきます。
- 相手に「適切に」「正確に」伝えることに力を入れていきます。

### 【生徒質問紙からみられる3年生の特徴（生活面）】

生徒への質問（抜粋）	肯定的（%）
学校に行くのは楽しいと思いますか	86.5 ↑
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	54.6 ↑
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	93.7 ↓
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	90.8 ↑
自分には良いところがありますか	76.5 ↑
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	95.0 ↑
将来の夢や目標を持っていますか	68.8 ↓
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか	52.5 ↓
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	70.2 ↓
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか	62.4 ↓
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	78.8 ↑
外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	73.8 ↑
日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国人にもっと知ってもらいたいと思いますか	66.7 ↑
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができますか	27.7 ↓
今住んでいる地域の行事に参加していますか	41.1 ↓

表の数値は、各質問に対し「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」(肯定的な回答)の合計割合を表しています。また、↑は全国平均を上回って、↓は下回っていることを表しています。

◇「家で、自分で計画を立てて勉強している」生徒はまだ半数程度ですが着実に増えています。「家庭学習シート」(現「自主学習ノート」)の活用が生徒の家庭学習を促す働きをしていると考えます。

◇「いじめはどんな理由があってもいけない」と積極的に肯定している生徒が80.9%と昨年度より10%上回っています。

◇「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」生徒の割合は、全国平均を下回っていますが、昨年度までの生徒の割合を上回っています。

#### [その他の質問から]

◇「毎日同じくらいの時刻に寝ている」生徒の割合が全国平均を下回っています。

◇「家で全く勉強しない」生徒は0.7%と全国平均を大きく下回っており、「平日1時間以上、家(塾等を含む)で学習している」生徒は70.2%と全国平均を上回っています。

## NRT(学力到達度検査)(1・2年生)

### 【1年生 国語】

＜強み＞「書くこと」の領域、特に「表現の効果を確かめ正しく書く」問題の正答率が高かったです。

＜弱み＞「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」の領域、特に「説明的な文章を読むこと」を苦手とする生徒が目立ちました。

○「書く力」を伸ばすための取り組みを続けます。

○段落ごとの内容を捉え、文章全体の構成を考える学習活動を取り入れていきます。

○毎時間の漢字テストの取り組みを継続するとともに、辞書を活用する場面を設定し、語彙力や知識を増やしていきます。

### 【1年生 数学】

＜強み＞「数と式」の領域、特に「文字を用いた式」の正答率が高かったです。観点別においては、「知識・理解」が全国平均を上回っています。

＜弱み＞「図形」の領域はほぼ全国平均並みですが、「関数」「資料の活用」、特に「比例・反比例」、「資料の調べ方」「起こり得る場合」が苦手な生徒が多かったです。小問別で見ると、「比例・反比例の関係」「柱状グラフの読み取り」「場合の数の考え方」が下回っています。観点別においては、「技能」や「見方・考え方」が全国平均を下回っています。

○関数、図形、資料の活用を授業で行っていく中で、知識・理解を確認したうえで、見方や考え方を養う問題に力を入れていきます。

### 【2年生 国語】

＜強み＞「読むこと」「言語」領域がよくできており、特に「漢字の読み」は小問すべての正解率が全国を上回っています。

＜弱み＞「言語」領域での小問では「漢字の書き」「表現技法」「文法」について、「書く」領域では「接続詞の選択」「文章の批評」などが苦手なようです。

○「書く」機会を増やし、漢字や語句に关心を持って学習できるよう指導していきます。

### 【2年生 数学】

＜強み＞すべての領域（「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」）において全国平均を上回っています。観点別（「見方・考え方」「技能」「知識・理解」）においてもすべて全国平均を上回っています。「技能」や「知識・理解」の能力が伸びた理由としては、間違った問題に対し

て解き直すだけでなく、その問題を解くためのポイントや気付きを文章形式で書かせたレポートによる取り組みが良かったと考えます。

＜弱み＞「空間図形」は苦手なようです。また、小領域において「正負の数の活用」「投影図と見取図」「等距離の作図」「比例の利用・説明」の問題が全国平均より下回っています。傾向として、できる生徒とできない生徒の二極化が見られます。

○学力に自信のない生徒が力をつけられる授業の展開（分かりやすい授業・班の活用・小テストの活用・参加できる（少人数）授業など）をさらに重視していきます。

## 英検IBA(英語能力測定テスト)(2・3年生)

英語検定準会場校として4年間取り組み、多くの生徒が英語学習にチャレンジし続けています。

### 【2年生】

平均得点は619点（5級～4級レベル）で、昨年度の2年生に比べて少し苦手な生徒が多いようです。分野別正答率は 語彙・熟語・文法 79.8% 読解 73.9% リスニング 79.0%でした。その中では、リスニング能力が優れています。今後、特に苦手意識の高い生徒に対して、語彙・熟語・文法などの基礎的な内容の習得時間の補充が必要です。

### 【3年生】

平均得点は769点（3級レベル）です。分野別正答率は 語彙・熟語・文法 81.0% 読解 72.3% リスニング 75.3%でした。特に読解力に優れています。

## 今後の指導や取組について

今後も、一人ひとりの生徒が学校生活を安心かつ自信を持って過ごし、自分の将来を切り拓くことができるよう、人権学習を通じて「人を大切にする」ことを正しく学び、体験学習や志授業などによるキャリア教育を推進します。また、教科学習では、生徒が学習に対する意欲や関心を高め、参加することができる「わかる授業」を目指して、以下の点について取り組みます

- ☆授業のめあてを明確に示し、授業の振り返りを行ながら、本校の学力向上システム「MITSAKI」の「I」＝「ICTの活用」や、「T」＝「ともに学ぶ=グループ活動」、「A」＝『アプローチ』等をさらに充実させて、生徒が主役（中心）となる学習活動をめざし、学習に対する関心を高め、意欲的に取り組めるように指導の改善を図ります。
- ☆すべての活動の場で、生徒を認め、自己肯定感や人権意識を高める取り組みを進めることにより、一人ひとりが安心して学習できる環境を作ります。
- ☆志授業や地域人材・資源を活用した体験的活動の充実を図り、生徒の夢やめざす将来像を広げます。
- ☆授業での問題解決学習や「クラス会議」「道徳」の充実により、身の回りの課題を見つけて主体的・協働的に解決する力やコミュニケーション力等、「生きる力」の育成に努めます。
- ☆各学期の「教育相談週間」、定期テスト前の「質問日」、長期休業中の「自主学習」を継続して、学習習慣の定着、学習意欲のさらなる向上を図ります。
- ☆「自主学習ノート」を継続し、1・2年生は毎日の授業の振り返り、3年生は帰りの会前の基礎学習プリントの学習に取り組みます。
- ☆「コミュニティスクール運営協議会」を通じて、外部講師を招いた授業や学習会、英語・漢字検定等実施への協力、地域行事や地域ボランティアへの参加を促進します。